

# 9/15 全力で三里塚へ

## 日刊 動労千葉

80.9.13

No.533

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二二五八・九(公衆)四五三二七二〇七

# 金大中氏への 死刑求刑を許すな!

九月十一日、血ぬられた全斗煥軍部独裁は遂に軍事裁判において金大中氏に対し死刑求刑を行った。

論告求刑では「(金大中氏は)この地上から永遠に追放すべきであり、われわれの歴史上二度と生まれてはならない」と最大級の憎しみをこめている。

これは、自由と統一を求め生命をかけて不屈の闘いを続ける南朝鮮人民、とりわけあの偉大な光州蜂起に恐怖した全斗煥軍部独裁の階級的報復の攻撃である。

事態は急を告げている。さらに全人民的な全斗煥とそれを背後から支える反動鈴木内閣弾劾金大中氏死刑攻撃阻止の闘いをまき起こしていかなければならない。

## 三里塚は労働者の未来を決する闘い

金大中氏らへの死刑攻撃を許さず、光州をはじめとする闘う朝鮮人民と固く連帯する日本での決起こそ、9・15三里塚闘争である。

血ぬられた全斗煥軍部独裁を支える反動鈴木内閣は、現在なりふりかまわぬ軍事大国化ノ侵略と反動の攻撃にうって出ている。

三里塚農民を先頭とする日本労働者階級・人民の闘いの砦ノ三里塚をめぐる秋の闘いの一大爆発こそは、日本の将来を左右する決定的に重要な闘いとなった。

反動鈴木内閣が軍事大国化攻撃の突破口を「空整」―三里塚二期完成を軸に、巨大空港建設をもって、今日最大の軍事産業である航空宇宙産業開発に求めている。したがって三里塚闘争が地域的・個別的な闘いではなく全ての労働者人民が闘わなければならない反動鈴木内閣の軍事大国化ノアジア侵略の攻撃との対決における決定的な闘いなのである。

さらに三里塚闘争は、日本階級闘争の最先端に位置する労働者人民の闘いの砦である。反動鈴木内閣は、この闘いの砦ノ三里塚闘争の圧殺を狙い、これまでの力関係を全面的に反動的に逆転させ、侵略体制・暗黒支配体制を強引につくり上げようと狙っている。

それゆえに、三里塚闘争の掃すうは、八〇年―八〇年代のすべての闘いの掃すうを決定するのである。

われわれは、三里塚・ジェット闘争を闘うにあたって

あらゆる弾圧にも屈せず、大地に深く根ざした闘いとして展開してきた三里塚芝山農民の闘いに共感し、権力・当局の尖兵と化して農民に敵対することをキッパリと拒否する労働者としての階級的原点を確立してきた。

この階級的原点に立脚した闘いであつたからこそ、三里塚・ジェット闘争を「本部」反動分子の組織破壊にも屈せず、逆に撃破して闘い抜き、当局の合理化攻勢ノ既得権剥奪攻撃に歯ドメをかけた動労千葉の比類なき団結をかちとってきたのである。

## 9・15を突破口に秋期闘争の高揚を!

「五六・三」燃料輸送延長問題は、動労千葉にとつて避けて通ることのできない課題である。まさに「五六・三」は動労千葉の正念場である。われわれは、三里塚農民との今日まで築きあげた労農連帯の闘いの成果をかけて闘わなければならない。この闘いの勝利を切り拓くものとして、9・15を突破口に今秋三里塚闘争の爆発的高揚をかちとり、多くの労働者人民を三里塚陣型に結集させることである。そして職場からの決起をもつて「五六・三」燃料輸送要員生みだしのため「五五・一〇」攻撃を許さず闘うことである。

「本部」反動分子の土屋粹を先兵にした三里塚・ジェット闘争の新たな敵対策動を許さず、9・15三里塚へ決起しよう。